

商工青年のつどい 十勝大会 を足寄で

北海道商工会連合会十勝支部青年部の第二回年次大会は十九日に管内十六カ町村の商工会青年部員二百名が参加して足寄町でひらかれた。

この日、参加者は午前十一時に足寄駅前集合して足寄高校グラウンドを先頭に、小林町長、久保商工会長らの来賓団、松崎大会長の役員団につき、各町村団毎に大通りをパレードして会場の公民館大ホールに入場して各町村プロックで着席しました。

大会は「君が代」斉唱にはじまり各青年部と来賓の紹介があつて総会経過報告新役員紹介につき松崎総大会長(足寄)のあいさつ、菊地賞蔵名誉大会長(道商連会長)のあいさつ、小林町長、久保商工会長の歓迎の辞、十勝支庁厚海経済部長の祝辞があり、十勝選出の衆議院議員、道議などからの祝電披露があつて議事に入りました。

議事は四町の青年部から提出された「経営の近代化と組織の強化」(池田町)「農協店舗の員外利用の法的規制」(芽室町)「青色申告事業主の給与制の実現」(浦幌町)「愛町購買連

動の推進」(足寄町)についてそれぞれ提案説明があつてこれを大会スローガンとして決定、さらに、我々は自ら体質改善を図り経営の近代化と合理化を促進するとともに団結を固め組織を通じて中小企業者の繁栄を期す、農協の購買事業活動等の行きすぎを是正し小売業者の経営の安定を図るため農協の員外利用の全面廃止の実現を期す。

三、青色申告事業主の給与制の早期実現を期す、四、愛町購買連を強力に推進し商工業の立場から町づくりに協力することを大会の決議とし、このあと北海道経営能力協会専務理事の羽島恒氏の講話があつて午後三時すぎに閉会しました。

「新時代における青年経営者の責務」と題して講演があつたのは、北海道の美濃代市代議士が顔をみせてつぎのようなあいさつがあつて午後三時すぎに閉会しました。

訪韓随想録 安久津政人

国防費生活を圧迫
五月二日から五日間、韓国タイキョウ啓明大学で日韓平和セミナーが開かれ、私の出席が許されました。日本側から十名、韓国側から五十名で主として日韓条約における不備な点、人種差別、歴史の回顧、今後の交流に対する検討、産業経済、人材等たくさんさんの提案が審議されました。

主体がキリスト教的な社会観から結論を得る方式で日本側から二名の大学教授も参加、韓国側から八名の学生者の出席の中で私達庶民が常識的に考えていること

三、新時代における青年経営者の責務」(池田町)「農協店舗の員外利用の法的規制」(芽室町)「青色申告事業主の給与制の実現」(浦幌町)「愛町購買連

勲五 工藤さんを祝う会 等の

四月二十九日の「天皇の御即位五周年」に際し、勲五等双光旭日章に叙せられた前陸奥町長の工藤吉吉氏は、静江夫人とともに当時の山陽、山陰方面に旅行中、たまたま東京の都子息宅に立ち寄つたさいこのことを知らされて道庁東京事務所所長、勲章を受領の上、九日に皇居北に参内し、皇太子殿下に御挨拶を申し上げました。

人なつこい韓国人

韓国の美点は政治家も学生も庶民もひとつの目標を持ち日本に習い一日も早く経済を再建すること、独立国としての安定線を見出すことと努力を願うが一致していることでありました。明治維新時の日本の国情からして国民が世界に眼を開いて一致団結したという状態と相似し国に若さがある限り、人なつこい国民性は私達に一人々々として受け継がれ、決して失うべきものでないと思ふ。手と笑顔で送り迎える態度は只今の韓国の教育熱の高みと実態と総合判断して必ずや彼らは今までの日本人に劣等視された朝鮮人という

の丈夫な苗
夏キャベツ
トマト
ナス
ナンバン
キュウリ

足寄町消防本部様
武藤野菜店
電話三五八番

初夏の衣料が各
産地からドツサ
リ入荷いたし店
内に陳列を完了
しました、どう
ぞ御高覧下さい

初夏の新しいブラウス 百選会
婦人ワンピース新型 発表会
婦人ババリコートオール陳列会
あわせて御高覧頂ければ幸いです

足寄駅前 電話22番
前田呉服店

上野カメラ堂
カメラ
ハミリ
写真材料
足寄駅前通り T四二〇

不動産についての御相談は
調査、売買、あつせん、管理、分譲
代行、登記、損害保険代理まで
同和、興和火災保険代理
北海道免許第26号

足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目 T三四五

近代住宅に新建材!
家具、建具、製造、各種サツシ施工
各種建築資材
新築、改築に御相談下さい

桜井建具店
足寄町北五区 電話362番

技術に生きる!
ステレオ
レコード
オーディオ

あらゆる電気器具
有限会社 ミネ・デンキ
足寄劇場前 電話142番